

二人^{ふたり}を乗^のせた蝶^{ちょう}は、黒^{くろ}い羽^{はね}に水色^{みずいろ}のラインが入^{はい}った、ア
オスジアゲハという種^{しゅるい}類^{ちよう}の蝶^{ちょう}でした。マヤは、蝶^{ちょう}に話^{はな}しか
けました。

「ねえ、蝶^{ちょう}ちゃん、どうして、わたしたち、ここにいる
の？」

「だって、あなた、言^いったでしょう。『こんな蝶^{ちょう}にのって空^{そら}
を飛^とぶことができたらどんな気^き分^{ぶん}なんだろうね。』って。
だから、二人^{ふたり}を乗^のせてあげようって、思^{おも}ったんですよ。わ
たしは、子^こどもが大好き^{だいす}だからね。それに……」

「それに、何^{なに}？」

「いや、実^{じつ}は二人^{ふたり}にお願^{ねが}いしたいことがあるのです。」

「お願^{ねが}いしたいことって？」

と、ケンがたずねました。

「今^{いま}はまだ秘^ひ密^{みつ}です。さあ、まずは、わたしたちの住^すむ森^{もり}
へ二人^{ふたり}を案内^{あんない}しますよ。」

と、アオスジアゲハは答^{こた}えると、羽^{はね}を大^{おお}きくはばたかせて
スピードをあげました。

「ぼくの名^な前は、ケンって言^いうんだ。こっちは、マヤ。君^{きみ}
の名^な前は？」

と、ケンがたずねると

「わたしの名^な前は、エルム。よろしく。」

薄^{うす}暗^{くら}闇^{やみ}をしばらく飛^とび続^{つづ}けると、やがて朝^あ日^{さひ}が昇^{のぼ}るとき
のように空^{そら}が白^{しら}み始^{はじ}め、その下^{した}には緑^{みどり}の森^{もり}が広^{ひろ}がっている
のが見^みえました。

「さあ、もうすぐわたしたちの住^すむ森^{もり}に着^つきますよ。」

エルムはそういつて微^ほ笑^{ほえ}むと、森^{もり}に向^むかって、さらには大^{おお}き
く羽^{はね}をはばたかせました。

ケンとマヤを乗^のせたエルムは、黄^き色^{いろ}い花^{はな}の花^{はな}びらにひら
りと止^とまり、二人^{ふたり}を羽^{はね}から下^おろすと、

「さあ、わたしたちの森^{もり}に着^つきましたよ。花^{はな}の蜜^{みつ}をすって
一^{ひと}休^{やす}みするしましょう。」

と、ふうっと息^{いき}を吐^はきました。

